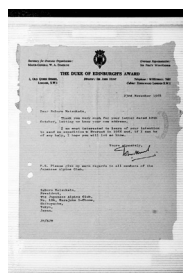
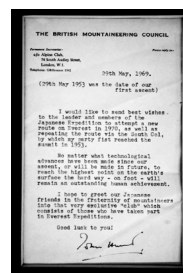


日本山岳会蔵資料紹介 No.11

[資産番号] 00133
 [資料名] 各国山岳会より松方隊長宛のメッセージ
 [部門名] 書簡
 [寄贈者] 日本山岳会
 [受入日] 1970年



①英国山岳会



②ジョン・ハント

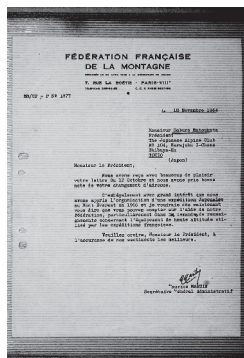
松方三郎(1899～1973年、第五代・第十代会長)宛の各国よりのメッセージ18通が残されている。

日本山岳会はマナスル登頂以後、次の大きな挑戦としてエベレスト登山計画を企てた。1966年にネパール政府より念願の登山許可を得たものの、急に許可が取り消しとなり、足踏みを余儀なくされた。当時のネパールは政情不安が続いており、1969年まで外国人による登山は禁止となり、その後、登山許可は1年に1国しか得ることができなかった。登頂をねらう各国登山隊も多く、エベレスト登山を実現するにはそれなりの幅広い力が必要であった。英国山岳会やスイス山岳会の会員でもあった松方は、有力各国に我が国のエベレスト登山に対する熱い思いの「挨拶状」を送り届けた。それを受けた国や団体などから届いたメッセージである。

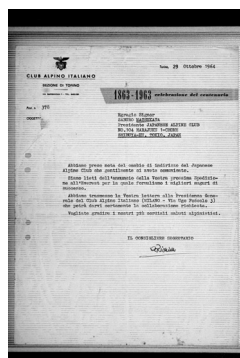
これは、日本山岳会エベレスト登山隊登頂(1970年5月11日)における実現環境作りとして貢献した重要な書簡であろう。その一部を紹介する。

松方が「挨拶状」をどこに送ったのか、その内容はいかなるものであったか……残念なことに詳細な記録は見つかっていない。情報をお持ちの方は下記までお知らせください。なお、日本山岳会ホームページ→委員会→資料映像委員会へアクセスすると、「会報ページそのもの」を「拡大およびカラー」で見ることができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。

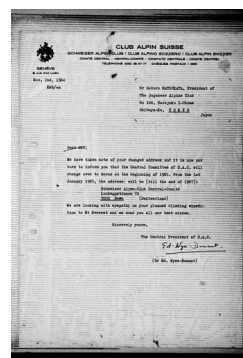
☞jacshiryo102@jac.or.jp
 (資料映像委員会)



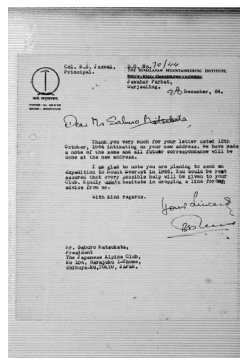
⑤フランス山岳連盟



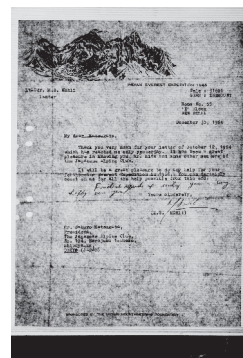
③イタリア山岳会



④スイス山岳会



⑥ヒマラヤ登山学校



⑦インド・エベレスト登山隊長

◆編集後記◆

●ページを割いて大学山岳部のアンケート結果を載せたのは、各山岳部やOB会が、少しでも勇気づけられ、次なる方向性を見出し、横の繋がりができればよいと思ったから。休部になったけれど、その後復活した大学もある。部員が増加し、活発に活動している部もある。少数ながら本当に登山に打ち込みたい部員が揃い、続いている部もある。

●登山は大きなリスクを含んだ行為であるが、それを承知した先輩やOBたちに支えられながら、若い時期にみっちり経験できることがどれほど貴重なことか、振り返ると実感する。山岳部に限らず、WV部、探検部など自然のなかへ入って活動する部が、活発な時代であって欲しい。
 (柏澄子)

日本山岳会会報 山 828号

2014年(平成26年)5月20日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイツ四番町
 TEL 東京(03)3261-4433
 FAX 東京(03)3261-4441
 発行者 日本山岳会会長 森 武昭
 編集人 柏 澄子
 Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社